

坪井夏美さん応援レポート

フレッシュ名曲コンサート

飯森範親指揮／日本フィルハーモニー交響楽団

2016年7月3日(日)

たましんRISURUホール(立川市民会館)

3度目のオーケストラとのメンコン

フレッシュ名曲コンサート。公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)が、都内の区市町村及び区市町村の指定する団体との共催により実施するコンサートである。地域で身近にクラシック音楽等の名曲に親しむ機会を提供し、併せて東京音楽コンクール入賞者をはじめとする新進演奏家の発掘・育成を図ることを目的として開催されている。著名指揮者、一流オーケストラとのコンツェルト(協奏曲)の演奏など、若手演奏家にとって、貴重な演奏機会となっている。なお、江副記念財団は2016年度の助成事業として「東京音楽コンクール」を支援している。

坪井さんは「第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞」受賞者として登場。飯森範親氏の指揮、日本フィルハーモニー交響楽団との共演で、ソリストとして、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲(メンコン)を演奏する。

管弦楽の日本フィルハーモニーは、今年創立60周年を迎える日本を代表する交響楽団。歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、質の高い音楽を提供し続けるオーケストラである。

会場は立川市民会館「たましんRISURUホール」。猛暑日となり、刺すような日差しの中、多くのお客様が詰めかけてくれている。



フレッシュ名曲コンサート

シュペルト メンデルスゾーン ベートーヴェン
ヴァイオリン協奏曲

「未完成」 「メンコン」 「運命」

日本フィルハーモニー交響楽団

飯森範親 指揮 坪井夏美 ヴァイオリン

第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

7月3日(日) 15:00開演(14:30開場)

たましんRISURUホール 大ホール
(立川市民会館)

S席¥3,500 A席¥2,500 B席¥1,500 好評発売中

●学生各席¥1,000引 ●親子割引(A・B席のみ)小・中学生1名¥500

※ムーサ友の会員登録料各席1割引。ムーサ友の会にご入会ください。
詳しくは、財団ホームページ <http://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp> をご覧ください。
※本公演は、車椅子使用者のための配慮がございます。
※未就学児の入場はご遠慮ください。有料の託児サービスがございますのでご利用ください。

〈チケットのお客めは〉
★たましんRISURUホール窓口 TEL.042-526-1311 (9:00~20:00/第3月曜日休館)
★財団オンラインチケット <http://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp>
★イープラス <http://epplus.jp>

主 催: 立川市、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)
企画協力: 公益財団法人立川市地域文化振興財団、東京オーケストラ事業協同組合



ひとつひとつの音を大切に、丁寧に



演奏会が始まる。

最初の曲、シューベルトの交響曲第7番。完成されたスコアが第1、第2楽章しかないため「未完成的交響曲」と呼ばれている。「未完成」であることで、より高い「完成」を見たときとされる作品が、美しく奏でられる。



拍手に迎えられ、坪井さん登場。ブルーの舞台ドレスがよく映える。坪井さんにとっては、3度目のオーケストラとのメンコン。1月にも聴かせてくれたが、多くの人々に愛される名曲を、今回どのように表現してくれるか楽しみだ。

1カ月前に宗次コレクションにより貸与を受けたという、新しいヴァイオリンによる演奏である。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲が始まる。よく知られ、親しまれた美しい旋律。哀愁をただよわせながら優美に、坪井さんらしく、ひとつひとつの音を大切に、丁寧に奏でられる。細かいところにまで行き届いた繊細な音色。

名曲を、たつぷりと美しく響きわたらせて終曲。満場の拍手。客席からは大きな「ブラヴォー」の声も上がっていた。

休憩後は、オーケストラによるベートーヴェンの「運命」。名曲づくしのプログラムが披露された。



演奏中写真のご提供：公益財団法人立川市地域文化振興財団

心に沁み込む音色を目指して



終演後、楽屋でマエストロ飯森氏と

一 目指す方向性は：

「…オーバーなことをしなくても、心に沁み込む、心にすーっと入ってくるような音色で演奏をしていきたいと思っています。視野を広く持ちつつ、それぞれの曲に込められた想いを私なりに表現していきたいです」。

「…今年度後半も演奏会の機会をたくさんいただいています。演奏会でしか学べないことも多く、楽しみでもあり、大変にありがたいです。お客様に楽しんでいただくのはもちろん、自分にとってもいい経験にしていきたいと思っています」と語ってくれた。

坪井さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！

終演後の坪井さんに、話を聞いた；

一 本日のメンコン、思い通りに？；

「…指揮者やオーケストラとの会話を楽しみながら演奏することができました。自分のやりたい音楽を伝えることができたと思います」

「…新しい楽器の良さを引き出すまでに苦労しましたが、本番直前になって、ようやく自分が欲しいと思う音色が出せるようになりました」

「…音を届けつつ、音色を楽しみつつ、オケと会話しつつ…いろいろなことを考えて弾いていました」

「…誰もが知っている名曲中の名曲、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲の素晴らしさ、そして難しさを改めて感じた本番でした。指揮の飯森範親先生をはじめ日本フィルハーモニーの皆様からたくさんのエネルギーを頂いて、私自身の世界が広がったように感じました」

一 1月にもメンコンを弾かれましたね；

「…1月より更にオーケストラと一緒に演奏できた、一緒に作ることができた、という感触があります」

「…5月に仙台のコンクールで弾き振り(指揮者なしでオケと合わせる。ソリストがリードする形)を経験しました。弾き振りを経験したことにより、『指揮者の存在』を強く意識し、共に音楽を作っていくことを以前よりも自然に感じられるようになりました。貴重な経験でした」。



コンサートマスター高木和弘氏と

<演奏会概要>

◆出演

指揮：飯森範親

ヴァイオリン：坪井夏美

日本フィルハーモニー交響楽団

◆プログラム

シューベルト：交響曲第7番 ロ短調 D759「未完成」

ベートーヴェン：交響曲第5番 ハ短調 op.67「運命」

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

【コンサート・フライヤー(表)】

フレッシュ名曲コンサート

シューベルト メンデルスゾーン ベートーヴェン
ヴァイオリン協奏曲

「未完成」 「メンコン」 「運命」

日本フィルハーモニー交響楽団

飯森範親 指揮 **坪井夏美** ヴァイオリン

第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞



(C) 川崎

Natsumi Tsunoda

7月3日(日) 15:00開演(14:30開場)

たましんRISURUホール 大ホール
(立川市市民会館)

S席¥3,500 A席¥2,500 B席¥1,500 好評発売中

●学生各席¥1,000引 ●親子割引(A・B席のみ)小・中学生1名¥500

※ムーサ友の会会員価格各席1割引。ムーサ友の会にご入会ください。
詳しくは、財団ホームページ <http://www.tachikawa-chikibunka.or.jp> をご覧ください。
※本公演は、車椅子使用者のためのお席がございます。
※未就学児の入場はご遠慮ください。有料の託児サービスがございますのでご利用ください。

<チケットのお求めは>
★たましんRISURUホール窓口 TEL.042-526-1311 (9:00-20:00/第3月曜日休館)
★財団オンラインチケット <http://www.tachikawa-chikibunka.or.jp>
★イープラス <http://eplus.jp>

主 催: 立川市、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)
企画協力: 公益財団法人立川市地域文化振興財団、東京オーケストラ事業協同組合

<曲 目>

シューベルト：交響曲 第7番 口短調 D.759 「未完成」

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

ベートーヴェン：交響曲 第5番 八短調 op.67 「運命」

<プロフィール>

飯森範親 (指揮) Norichika Iimori (Conductor)

桐朋学園大学音楽科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、1994年から東京交響楽団の専属指揮者、マスコワ放送交響楽団特別客演指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。00年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。

海外ではフランクフルト交響、ケルン交響、チェコ・フィル、ブラハ等などに客演を度ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督 (GMD) に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音、日本ツアーも成功に導いた。

現在、東京交響楽団正指揮者、いづみシンフォニエッタ大宮常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。07年から山形交響楽団の音楽監督に就任、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動拠点と水準の向上に目覚ましい成果を挙げたことで、10年のビジネス・イノベーション・アワード大賞、11年宮澤茂吉文化賞を受賞。近年は音楽家としての活動のみならず、こうしたアートマネジメント分野でもその才眼を発揮、日本経営士会名誉会員として活躍の場を広げている。14年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。オフィシャル・ホームページ www.iimori-norichika.com

坪井夏美 (ヴァイオリン) Natsumi Tsuboi (Violin)

1993年米国ニューヨーク州生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、現在は同大学院音楽研究科修士課程1年在学中。第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及口短調賞をはじめ、2015年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位、第81回日本音楽コンクール第3位、IMA奨励賞を受賞。ミュージックアカデミー in みやざき 2012・2013・2014にて優秀賞を受賞し宮崎国際音楽祭「新星たちのコンサート」に出演。14年からはオーケストラメンバーとして参加、小澤国際室内楽アカデミー員志願 2015、リゾナーレ室内楽セミナー2016に参加。

これまでに読響、新日本フィル、日本センチュリー、東京フィル、芸大フィル、ニューフィル千葉、と共演。江崎記念財団第44回奨学生、ロームミュージックファンデーション15、16年度奨学生。また東京藝術大学学内に定宿賞、アカンチス音楽賞を受賞。卒業時に皇居内親王御所にて御前演奏会に出演。

これまでに、橋本早子、故 Lydia Mordkovich、Mateja Mordkovic、清水涼子、神谷美千子、Pierre Amoyal、渡辺明子、原田幸一郎の各氏に師事。室内楽を松原勝也、市坪俊彦、川本嘉子、川崎和樹、大淵博明の各氏に師事。

日本フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽) Japan Philharmonic Orchestra

1966年6月創立。楽団創設の中心となった渡邊曉雄が初代常任指揮者を務める。当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。2016年に創立50周年を迎える。この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、質の高い音楽をお届けする「オーケストラ・コンサート」、音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」、音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。

ロシアの名匠、首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ。桂冠常任指揮者小林研一郎、正指揮者山田和俊、首席客演指揮者ビクタリ・インキネン。そしてミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣を中心に、さらなる演奏力の向上をめざし、「音楽を通して文化を発信」していく。11年4月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地に音楽を」を開始、15年3月末までに105公演を実施し、現在でも継続している。オフィシャル・ウェブサイト <http://www.japanphil.or.jp>



(C)山口敦

フレッシュ名曲コンサート

飯森範親 指揮

坪井夏美 ヴァイオリン

日本フィルハーモニー交響楽団

Natsunifubai

2016年7月3日(日) 15:00 開演

たましん**RISURU**ホール
(立川市市民会館)大ホール

主 催:立川市、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京文化会館)

企画協力:公益財団法人立川市地域文化振興財団、東京オーケストラ事業協同組合

【コンサート・プログラム(裏表紙)】

飯森範親 (指揮) Norichika Iimori (Conductor)



(C)川崎 朝

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年に東京交響楽団の専属指揮者に就任。以来、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、広島交響楽団正指揮者を歴任。1996年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。03年、NHK交響楽団定期でのマラー：交響曲第1番は、日本人指揮者として唯一の年間ベスト10コンサートに選出された。

海外ではフランクフルト放送、ケルン放送、チェコ・フィル、ブラハグ、モスクワ放送、北西ドイツ・フィル、デュッセルドルフ響、ドルトムント・フィル、バーゼル響、チェコ国立ブルノ・フィル、チェコ国立モラヴィア・フィル、ホノルル響など世界的なオーケストラに客演を重ね、01年よりドイツ・ヴェルデンベルク・フィルの音楽総監督 (GMD) に着任。日本ツアーを成功させるとともに、ベートーヴェン交響曲全集をリリース。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。

現在、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルデンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。

07年から山形交響楽団の音楽監督に就任、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動発展と水準の向上に目覚ましい成果を挙げている。08年にはアカデミー賞映画「おくりびと」にも出演するなど、「飯森&山形」コンビのエネルギー活動はいま大きな注目を集めている。オーケストラを革新し、地域活性化に貢献したことから、10年のビジネス・イノベーション・アワード大賞を受賞し、11年には山形県より顕彰文化賞を受賞。近年は音楽家としての活動のみならず、こうしたアートマネジメント分野でもその才能を発揮し、日本経営士会名誉会員として活躍の場を広げている。12年 東京交響楽団との《レスピーギ：交響詩「ローマの松」「ローマの噴水」「ローマの祭り」》はレコード芸術誌特選盤に選ばれた。

14年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。

オフィシャル・ホームページ <http://www.iimori-norichika.com>

坪井夏美 (ヴァイオリン) Natsumi Tsuboi (violin)

(第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞)

1993年米国ニューヨーク州生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校、同大学を経て、現在は東京藝術大学大学院音楽研究科1年在学中。

第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞をはじめ、15年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位、第81回日本音楽コンクール第3位、IMA奨励賞を受賞。ミュージックアカデミーinみやざき2012・13・14にて優秀賞を受賞し宮崎国際音楽祭「新星たちのコンサート」に出演。14年からはオーケストラメンバーとして参加。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀2015・16リゾナーレ室内楽講習会に参加。

これまでに読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、藝大フィルハーモニア、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉等と共演。江副記念財団第44回奨学生、ロームミュージックファンデーション2015・16年度奨学生。

東京藝術大学学内に安宅賞・アカンサス音楽賞を受賞。皇居内桃華学芸にて御前演奏会に出演。

これまでに、橋本瑠子、故 Lydia Mordkovich、Mateja Mordkovic、清水涼子、神谷美千子、Pierre Amoyal、藤原朝子、原田幸一郎の各氏に師事。室内楽を松原勝也、市坪俊彦、川本喜子、大関博明の各氏に師事。また各種講習会にて徳永二男、川崎雅夫、Regis Pasquier、Krzysztof Wegrzyn、Oleh Krysa、Pavel Vernikovの各氏に指導を受ける。

使用楽器は宗次コレクションにより貸与された J.Rocca 1864。



公益財団法人東京都歴史文化財団（東京文化会館）では、都内の区市町村及び区市町村の指定する団体との共催により、「フレッシュ名曲コンサート」を実施しています。

この事業は、都民の皆様に身近な地域で気軽にクラシック音楽等の名曲に親しんでいただく機会を提供し、併せて新進演奏家の発掘、育成を図ることを目的として開催するものです。

皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

公益財団法人東京都歴史文化財団（東京文化会館）

曲目解説

F.シューベルト(1897-1828)：交響曲第7番 ロ短調「未完成」D.759

「魔王」「野ばら」などの作品で「歌曲の王」と呼ばれるフランツ・シューベルトは、敬愛したベートーヴェンの後を追うように、彼の死の翌年に31歳の若さで亡くなり、その隣に葬られました。

交響曲「未完成」は、以前は完成している7曲の次の番号が付けられ第8番とされていましたが、近年では作曲した順にしたがって、第7番が「未完成」、それまで第7番とされていた「グレート」を第8番とすることが一般的となっています。

通常交響曲はベートーヴェンの「田園」（5楽章構成）のような特別な例を除き、四つの楽章で出来ていますが、この作品は第2楽章までしか完成しておらず、第3楽章の書きかけが存在することから、その名のとおり「未完成」であることに間違いありません。シューベルトの死後30年以上経って初演された後、今では世界中で演奏される彼の代表作になっています。

第1楽章 アレグロ・モデラート ロ短調

第2楽章 アンダンテ・コン・モート ホ長調

F.メンデルスゾーン(1809-1847)：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64

ドイツの作曲家フェリックス・メンデルスゾーンは、神童と呼ばれ早くから音楽の才能に開花しました。

このホ短調のヴァイオリン協奏曲は彼の作品の中で最も有名な作品であると同時に、数多いヴァイオリン協奏曲の中でも、ベートーヴェン、ブラームスの作品とともに三大ヴァイオリン協奏曲に数えられている名曲です。

メンデルスゾーンには数曲のピアノ協奏曲や20世紀になって発見されたニ短調のヴァイオリン協奏曲も作曲していますが、クラシック音楽ファンが「メン・コン」と略して親しんでいるのが、このホ短調のヴァイオリン協奏曲であることはいうまでもありません。

メンデルスゾーンが28歳の時に着想され、6年後の1844年に初演されました。初演の独奏者はメンデルスゾーンが常任指揮者を務めていたゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターであり、作曲の過程でもメンデルスゾーンにアドバイスを与えていた、フェルデナント・ダヴィットが努めました。

哀愁漂うヴァイオリンの独奏から始まる第1楽章、甘美な旋律が印象的な第2楽章、そして華やかに締めくくる第3楽章まで切れ目なく演奏するように指示されています。

第1楽章 アレグロ・モルト・アップパッシオナート ホ短調

第2楽章 アンダンテ ホ長調

第3楽章 アレグレット・ノン・トロppo ホ短調～アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ ホ長調

＜ 休憩 ＞

L.v.ベートーヴェン(1770-1827)：交響曲第5番 ハ短調「運命」 op.67

「楽聖」と呼ばれ、クラシック音楽の世界では特別な存在であるルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン。彼の残した九つの交響曲の中でも、第5番「運命」は世に知らぬものの無い、クラシック音楽を代表する作品といえるでしょう。

1803年に最初のスケッチが書かれ1808年に完成、第6番「田園」とともに12月にウィーンで初演されましたが、初演時には「田園」が第5番、「運命」は第6番として演奏されました。

「運命」という呼び名は、ベートーヴェン自身が、冒頭の「ダダ・ダーン」について、「このように運命が扉をたたく」と弟子のシントラーに語ったという逸話からきていますが、日本以外では、単に交響曲第5番とだけ呼ばれることが多いようです。

しかし、音楽家にとって致命的な、聴力を失うという過酷な運命に向き合い、それを象徴するような第1楽章から、最後はその運命に立ち向かう決意表明とも言える第4楽章までを聴けば、わが国でのこの「運命」という呼び名が、決して的外れなものではないことが、お分かりいただけるでしょう。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ ハ短調

第2楽章 アンダンテ・コン・モート 変イ長調

第3楽章 アレグロ ハ短調

第4楽章 アレグロ ハ長調

出演者プロフィール

日本フィルハーモニー交響楽団（管弦楽） Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立。楽団創設の中心となった渡邊曉雄が初代常任指揮者を務める。当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。2016年に創立60周年を迎える。この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、質の高い音楽をお届けする「オーケストラ・コンサート」、音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」、音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。ロシアの名匠、首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、首席客演指揮者ピエタリ・インキネン、そしてミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣を中心に、さらなる演奏力の向上をめざし、“音楽を通して文化を発信”していく。2011年4月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地に音楽を」を開始、15年3月末までに189公演を実施し、現在でも継続している。

オフィシャル・ウェブサイト <http://www.japanphil.or.jp>

コンサートマスター：高木和弘

